

博物館だより



第五回内国勲業博覧会錦絵

明治35年(1902) 縦32.0cm×横12.4cm

明治36年大阪天王寺で開催された勲業博覧会の宣伝用錦絵です。開催の前年に、大阪の三木直吉によって発行されました。木版による赤・青の色彩が鮮やかで、メインの呼び物である高村光雲の観音の噴水を中心に、楽しみに見物する和服姿の娘が大きく配られています。

(当館蔵)

高岡の「三天神」祭り

当館では平成13年10月6日から12月9日まで、企画展「郷土の天神信仰」を開催しました。菅原道真(845～903)を祖とするという前田家の関係で、高岡をはじめ北陸地方は全国的にみても特有の天神信仰が残っており、会期中は大勢の来館者で賑わいました。

天神信仰の根柢をなす「北野天神縁起絵巻」(京都・北野天満宮と富山・於保多神社所蔵)の写真展示をはじめ、「牛乗天神」「渡唐天神」「石櫓(火吹)天神」「稚児天神」

など各種の天神画像や、小松天満宮の貴重な宝物類、武生の「木彫天神」や全国各地の郷土玩具、絵馬・刷り物などの展示を通して、主に高岡を中心とした北陸地域の天神信仰の一端を紹介しました。

その事前調査によっていくつかの発見がありましたが、そのなかでも特に高岡の「三天神」ともいべき三つの天神祭りが行われていることがわかり、ここに紹介します。

◆利屋町

日付順にみていくと、まず5月24日から25日に行われるのは利屋町の天神祭りです。ご神体は木造天神像、曹洞宗龍雲寺住職の説経と高岡関野神社の宮司の祝詞が奏されます。以前は、現在のNTTの所在地に建てていた聖安寺で実施され、「鎮火御礼」が町内の各家に配られました。

龍雲寺内の天満宮には菅公没後千年の明治35年(1902)に書かれた略縁起が残っています。それによると、龍雲寺は大火の際、天神に祈念し類焼を免れたので、同寺第6世・桃谷源は、お礼に大宰府へ参詣したが、その時のお告げにより頂きました。元禄3年(1690)寺内に天満宮を造営し、その天神像を安置したといわれています。明治維新の際、町内に



勧請し、天神祭りを執り行うようになりました。祭りの当日には、町内の彫刻家・十二町二三吉の手になる大きな「天満宮」と彫られた額2点が龍雲寺に掛けられます。平成元年(1989)は、遷座300年にあたり、町内で盛大な祭礼が執り行われました。

◆千石町

6月14日夜から15日まで「ようたか」を各家の軒に吊るし、天満宮の境内には子供たちの習字などが展示される「献書祭」が行われます。



職人の町、千石町の天満宮は常駐の神主はいませんが、筆塚や臥牛なども備えており独立した天満宮としてはおそらく市内で最大の規模をもっており、町内で維持されてきました。現在でも11町内の自治会が順に当番町となり運営されています。

その起源は寛文11年(1671)に堀崎

庄司宗四郎種益によって造営されたことにはじまり、有職神社の上田宮司の支配のもと幾多の返遷をたどり、明治9年(1876)に現在地に遷座されました。拝殿内には文政8年(1825)に加賀藩主より拝領したという絹地に梅と藩主直筆の「天満宮」と書かれた額が掲げられ、木彫漆塗りの隨身像が奉られています。

昭和46年(1971)は天満宮鎮座300年祭にあたり、新殿を新築し、盛大に慶賀祭が挙行されました。

◆鉄砲町・白銀後町

三つの天神祭りの締めくくりとなるこの町内では、8月24日から25日にかけて曹洞宗禅徳寺において行われます。24日の宵祭りには同寺本堂内に設置された祭壇に、生きた鯉を樽・酒・野菜など他の供物とともに供え、午前0時丁度に裏手の用水に放たれます。これは「放生会」という儀式で、仏教の不殺生の思想に基づいて、捕らえられた生類を山野や池沼に放つ、社寺で陰暦8月15日に行われる儀式です。また翌日には鯛を供えるが、これは皆で直会(神事が終わって後、神酒・神饌をおろしていただく酒宴)の際に食します。

以前は、ご神体(天神画像)などの宝物がお旅所(宿)であった家に一晚安置されたというが、現在では唐櫃で運ばれ町内を一巡したのち、寺内の天満宮へお帰りになります。天満宮からご神体を唐櫃に移す時は、部屋を真っ暗にして覆面(マスク)をした大木白山社の神主が、笛の音が鳴り響くなか厳かに行われ、町内の人達は皆正座してうつむき、それを見てはならず神聖な雰囲気包まれます。

天文11年(1542)、この地が未だ「谷内」と呼んでいた時代、放生津(奈呉の浦)城の存亡の危機を救った順海寺城主寺崎氏と天神像に由来して行われる祭りです。



以上、簡単に高岡に残る三つの天神祭りを紹介しました。それぞれ、由緒ある伝承を伝えながら、特色ある祭礼を営んでおり、ぜひこれからも続けていって欲しいものです。

前田利家桶狭間凱旋画

昭和54年収蔵(大沢安三氏寄贈)
本紙 縦120.0cm×横54.8cm



信長から追放中の利家が私的に参戦した桶狭間合戦(永禄3年・1560)の首取り図。首級三つを得たと伝えられますが、本図には五つ描かれています。

「槍の又左」と異名を持った藩祖・利家にあやかり、藩士の士気を鼓舞するため描かれたといわれています。原画は江戸後期の画家・岸駒が描いたとされ、数多くの写しが現存しており、金沢では特に正月に飾られてきました。

◆新収蔵品紹介(平成14年1月31日現在)

購入	数量	分類
「マーガレット」	S.38.12 (1)	歴史
「週刊明星」	S.52.5	〃
「少年キング」	S.44.8	〃
「少年ジャンプ」	S.47.11	〃
「ビックコミック」	S.44.11	〃
「ガロ」	S.46.11	〃
「少女フレンド」	S.47.1	〃
「文芸春秋」	S.17.6	〃
「沈める寺」	〃	〃
「大毎こども」	(6)	〃
(S.9.1/S.10.1/S.11.1/ S.11.6/S.13.1/S.13.4)		
「主婦の友」	S.21.1 (1)	〃
「婦人文庫」	S.21.6	〃
「この子を残して」	〃	〃
「鉄腕アトムオリジナル」	〃	〃
「アサヒグラフ」	S.13.7	〃
「アサヒグラフ」	(4)	〃
(S.7.7.16/7.23/7.30/8.6)		
前田利長書状	(1)	〃
鳳凰麒麟文螺細塗高卓	〃	産業
椿に小鳥文彩漆塗長手盆	〃	〃
大黒文彫刻塗盆	〃	〃
花籠文錆絵手筈(高瀬蒼風作)	〃	〃
「懷宝童子往来」	〃	民俗
「風月往来」	〃	〃
「世話万字文」	〃	〃
「普通商売往来」	〃	〃
「世界商売往来」	〃	〃
「消息文例」	〃	〃

寄贈	数量	分類	寄贈者
御殿飾り雛人形(揃)	民俗	菅池英二氏	
(24件75点)			
駄菓子箱	(2)	〃	藤見立郎氏
家庭配置薬	(4)	〃	〃
指ぬき	(17)	〃	〃
「再刻日本略史」	(1)	歴史	大野武氏
「開発算数学」巻之二	〃	〃	〃
「小学用加賀地誌略」全	〃	〃	〃
「作文記事論説文叢」巻上	〃	〃	〃
「小学 書翰文例」			
巻之一・二・四	(3)	〃	〃
「隨身指要」巻上・中	(2)	〃	〃
「作文效略」三篇	(1)	〃	〃
「新編中等修身書」巻五	〃	〃	〃
「西洋事情」巻之三	〃	〃	〃
「改訂国文法教科書」巻三	〃	〃	〃
「中等新国文法」全	〃	〃	〃
「作文必要」			
記事論説文例下	〃	〃	〃
「学校用物理書」上・中	(2)	〃	〃
「新撰記事文」完	(1)	〃	〃
「日本地理初歩」甲種上	〃	〃	〃
和算教科書	〃	〃	〃
「古書籍売買明細帳」	〃	〃	〃
「日本古美術案内」上下巻	(2)	〃	〃
「文芸倶楽部」第九巻第七号	(1)	〃	〃
「西報千年史」第1～20集	(18)	〃	〃
「働く喜び都市生活」			
第2巻	(1)	〃	〃
「新制 漢文読本」巻四	〃	〃	〃

「三体千字文」坤	(1)	歴史	大野武氏
「習字書翰文」全	〃	〃	〃
「小学讀本」巻三・七の一部	〃	〃	〃
「木炭 割木 石炭 買入帳」	〃	民俗	〃
「龍光寺出張支決算残存金帳」	〃	〃	〃
「土屋村等御田地御米取立帳」	〃	〃	〃
「取達頼母子帳」	〃	歴史	井波博氏
室崎琴月年賀状	〃	民俗	〃
航空愛国週間記念			
愛国切手付はがき(2)	〃	〃	〃
帝国議会議事堂竣工			
記念切手付スタンプ(1)	〃	〃	〃
高岡絵葉書	(4)	〃	〃
銅器図案集第2-3号	(2)	産業	〃
草鞋	〃	民俗	榎宗明氏
浅香	(1)	〃	〃
深香	〃	〃	〃
東芝ルームエアコンディショナー	〃	〃	村井晃一氏
シンガー足踏シン	〃	〃	前田英徳氏
鮮魚卸商帳簿	(4)	〃	藤川達三氏
武生天神	(1)	〃	久野清士氏
天狗面	(1)	〃	内免神岡 獅子舞保存会
貸売御断看板	〃	〃	吉谷朝史氏
俳画「大根」	〃	歴史	〃

郷土の歴史資料などの 情報を求めています

歴史資料や生活資料は、社会の変遷や興亡の足跡を理解する上での貴重な文化遺産です。当博物館では、古文書・生活資料などの収集保存を行い展示に生かしたいと考えております。

◆常設展「郷土の暮らしと文化」

4月2日(火)～平成15年3月30日(日)

高岡市は、近世初期の開町以来、銅器・漆器をはじめとする伝統産業を生み出し、今日まで商工都市として発展してきました。特に明治期における高岡商家の商業活動は、全国的にみても特筆すべきものがあり、幾多の逸材を輩出してきました。

このような郷土の特性を当館収蔵資料を中心に高岡の歴史・民俗・産業や郷土の偉人を紹介し、市民学習の場として公開します。

◆企画展「郷土の俳句・俳画」

4月16日(火)～6月23日(日)

越中の俳句は元禄2年(1689)の「奥の細道」の芭蕉来訪以降、「越中蕉風」が華開き、庶民の間に広まりました。江戸中期には戸出(現高岡市)の尾崎康工が近隣の寺社に奉納額を残すなど活躍しています。また高岡町人など郷土の俳句を多く含む「狐の茶袋」をはじめ数多くの句集が発刊されました。

このような土壌のもとに、明治の中頃、正岡子規が俳句の近代化を唱え、新派俳句運動を起こします。子規の高弟・河東碧梧桐の来高を機に「越友会」が結成され、富山近代俳句が創始されました。

本展では越友会を中心に、寺野守水老・筏井竹の門・山口花笠・大石蔓など、郷土の俳人たちの足跡を書画・句集・関連写真資料などにより紹介します。



「今人は古人に如かず冬ごもり」
俳画「にんじん」
大正中期頃
筏井竹の門筆(1871-1925)

	<p>開館時間</p> <p>午前9時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)</p>
	<p>休館日</p> <p>・月曜日 (国民の祝日にあたるときはその翌日) ・年末年始 (12/29～1/3)</p>
	<p>交通</p> <p>JR北陸本線高岡駅より徒歩10分</p>
	<p>入館無料</p>
	<p>〒933-0044 富山県高岡市古城1-5</p>

◆企画展「殖産興業と博覧会」

7月9日(火)～9月1日(日)

明治政府が「殖産興業」の名のもと、近代化の促進を図り、数々の万国博覧会や内国勸業博覧会及び各地で共進会などが開催されました。富山県内からも高岡銅器・漆器のほか、絹織物や醸造品など種々の産業品が出品されています。

博覧会への参加により、西欧先進諸国の技術や知識の吸収が進み、国内産業の紹介・輸出拡大が促進されました。

明治期から昭和期にいたる内外の博覧会の出品関連資料・作品・賞状・メダル・錦絵・写真などを展示し、高岡銅器・漆器を中心に当時の県内の産業や物産事情を紹介します。



福寿文勇助塗師櫥
明治14年頃 石井勇助(二代)作(1843-1897)
(高岡市美術館蔵)

◆特別展「高岡の文化財」

10月16日(水)～12月15日(日)

高岡には、越中文化発祥の地として古代から今日に至るまで豊かな歴史を有しており、各時代の建造物・絵画・彫刻・書跡などの歴史的・民俗的文化遺産が数多く伝世されています。

本展では、そのなかから国・県・市より指定されている各種の文化財を写真展示も併せて公開し、市民はもとより県内外の方々にも広く郷土の文化財を紹介します。



竹虎紋金銀象嵌鐙
安田乾清作 市指定文化財(当館蔵)

◆収蔵品展「くらしの民具」

平成15年1月12日(日)～3月20日(木)

明治・大正・昭和に至る人々の暮らしの移り変わりを当館収蔵の衣食住に関する資料を中心に、新収蔵資料も併せて展示し、明日の暮らしを考える機会とします。